

平成22年5月7日

各 位

社団法人 日本病院薬剤師会

平成22年度妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師認定試験の実施について

平素より、薬剤師業務向上のためにご奮闘されていることに敬意を表します。

さて、当会では妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師の認定を目的とした認定試験を下記の日程で実施いたします。本認定試験は、今年度または次年度の認定申請時までに妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師認定申請資格の全ての条件を満たすことのできる方が対象です。

受験をご希望される方は申込書に必要事項をご記入の上、平成22年6月7日(月)までにFAXにてお申し込み下さい。お申し込みされた方に、事務局から、手続きについてご連絡させていただきます。

記

日 時 : 平成22年7月4日(日) 10時～12時

場 所 : 渋谷フォーラム8 (東京都渋谷区道玄坂2-10-7)

出題基準 : 別添のとおり

受験料 : 10,500円(税込)

<申込み・問い合わせ先>

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷2-12-15

日本薬学会長井記念館8階

社団法人 日本病院薬剤師会 事務局総務課

TEL 03-3406-0485

FAX 03-3797-5303

日本病院薬剤師会 事務局総務課宛
F A X 03-3797-5303

平成22年度
妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師認定試験 申
込書

※ 施設名	
※ 所属部署名	
役職名	
※ 施設所在地	〒
※ 氏名	
※ TEL	
F A X	
日病薬会員番号	
備考	

注1 ※印は記載必須項目です。

平成22年度妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師認定試験
出題基準と範囲

(1) 妊婦・授乳婦と周産期医療に関する知識

① 妊娠・出産に関する知識

妊娠・出産の過程、妊婦の生理学的な変化、ホルモンの働きについて説明できる。

② 授乳婦の知識

産褥期の母体の生理学的変化、授乳のメリット・デメリットについて説明できる。

③ 胎児・新生児の知識

胎児・新生児の器官形成・発育、新生児合併症、新生児の生理・代謝機能、薬物療法について説明できる。

④ 妊娠中に合併する疾患についての知識

妊娠可能な女性が罹患する可能性のある下記の代表的な疾患について、疫学、代表的な検査、一般的な治療法、およびそれら疾患自体が妊娠と胎児に与える影響について説明できる。
(悪阻、切迫早産、妊娠高血圧、てんかん、甲状腺疾患、統合失調症、うつ病、糖尿病、リウマチ、喘息等)

(2) 妊婦・授乳婦の薬物療法に関する知識

妊娠・授乳期に使用される代表的な薬剤について、薬理作用、体内動態などの知識だけでなく、妊婦・授乳婦が使用した薬剤の胎児・乳児への影響について、下記項目を説明できる。

① その薬剤について現在までに行われている疫学研究の結果

② その薬剤について現在までに公表されている症例報告の内容

③ その薬剤についての情報の限界

④ 薬剤と関連する可能性のある奇形の種類や胎児・新生児への悪影響および対処法

⑤ 適切な代替薬

(3) 栄養・サプリメント・嗜好品の影響に関する知識

① 妊婦・授乳婦にとって必要とされる栄養と、それらの補充を目的としたサプリメントについて、その役割、影響、摂取方法等を説明できる。

② 妊婦・授乳婦が摂取する可能性のある、アルコール、たばこ、その他の嗜好品について、それらの影響等を説明できる。

(4) 先天奇形・先天異常の知識

代表的な先天奇形の疫学、原因、治療、経過について説明できる。

(5) 臨床研究に関する知識

症例報告や疫学研究について、それぞれの特徴、メリットとデメリット、限界などについて説明できる。

(6) 生命倫理と法規制

生殖医療における生命倫理の原則と、医療従事者に求められる倫理的対応について説明できる。

(7) 法規制

妊婦・授乳婦に関連する法律・規制に関する内容について説明できる。

(8) 社会的な背景

妊婦・授乳婦について、社会的な立場や背景等の一般的な内容について説明できる。

(9) 妊婦および授乳婦に対する薬物療法に関する情報収集を行うことができる。

(10) 情報収集した情報をもとに、胎児、乳児へのリスクとベネフィットの評価を行うことができる。

(11) 妊婦・授乳婦へのリスクコミュニケーションについて説明できる。

<参考図書>

- ・平成 21 年度妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会テキスト
- ・平成 21 年度秋 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会テキスト
- ・平成 22 年度妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会テキスト
- ・添付文書
- ・インタビューフォーム
- ・DRUGS in PREGNANCY and LACTATION Eighth Edition 版／GERALD G. BRIGGS／Lippincott Williams & Wilkins／2008
- ・Medications and Mothers Milk 13 版／Thomas W. Ph. D. Hale／Pharmasoft Medical Pub／2008
- ・小児科学／五十嵐 隆編／文光堂／2004
- ・病気が見える vol. 10 産科／Medic Media／2009
- ・ムーア人体発生学 原著第 7 版／K. L. Moore ほか著／瀬口春道・小林俊博 ほか訳／医歯薬出版／2007

<参照ガイドライン>

- ・GINA 2009 (The Global Initiative for Asthma)／NHLBI・WHO
- ・喘息予防・管理ガイドライン 2009／2009／監修：日本アレルギー学会 喘息ガイドライン専門部会監修
- ・妊娠中の喘息管理：薬物療法ガイド日本語版／2005／監修：宮本昭正 訳：井上洋西
- ・Treatment of Tuberculosis (結核ガイドライン)／2003／MMWR2003, 6, 20 米国感染症学

会、米国胸部疾患学会、米国 CDC

- ・ 第7回 ACCP ガイドライン「静脈血塞栓症の予防」および「妊娠中の抗血栓薬の使用」日本語版／2006／監訳：肺塞栓症研究会
- ・ バセドウ病薬物治療のガイドライン 2006／2006／編集：日本甲状腺学会
- ・ 妊娠高血圧症候群（PIH）管理ガイドライン 2009／2009／編集：日本高血圧学会
- ・ てんかんを持つ妊娠可能年齢の女性に対する治療ガイドライン／日本てんかん学会
- ・ 腎疾患患者の妊娠-診療の手引きー 2007／日本腎臓学会編
- ・ 抗菌薬使用のガイドライン 2009／日本感染症学会、日本化学療法学会編
- ・ 一般医療従事者のための深在性真菌症に対する抗真菌薬使用ガイドライン
／日本化学療法学会、一般医療従事者のための深在性真菌症に対する抗真菌薬使用ガイドライン作成委員会編